

統計におけるオープンデータの高度化



- ▶ 政府統計の中核的機関である総務省統計局は、(独)統計センターと協力し、大量・多様な統計データの提供方法を次世代化し、データの高度利用を可能とする以下の取組を実施
　　オープンデータ推進のトップランナーとして政府の取組を先導

1. API機能による統計データの高度利用環境の構築
2. 統計GIS機能の強化
3. オンデマンドによる統計作成機能・方策の研究

- ▶ これにより、官民における統計データ利活用の高度化を促進し、新たな付加価値を創造するサービスや革新的な事業の創出などを支援

1 API機能による統計データの高度利用環境の構築

－大量・多様な統計データの機械的処理－

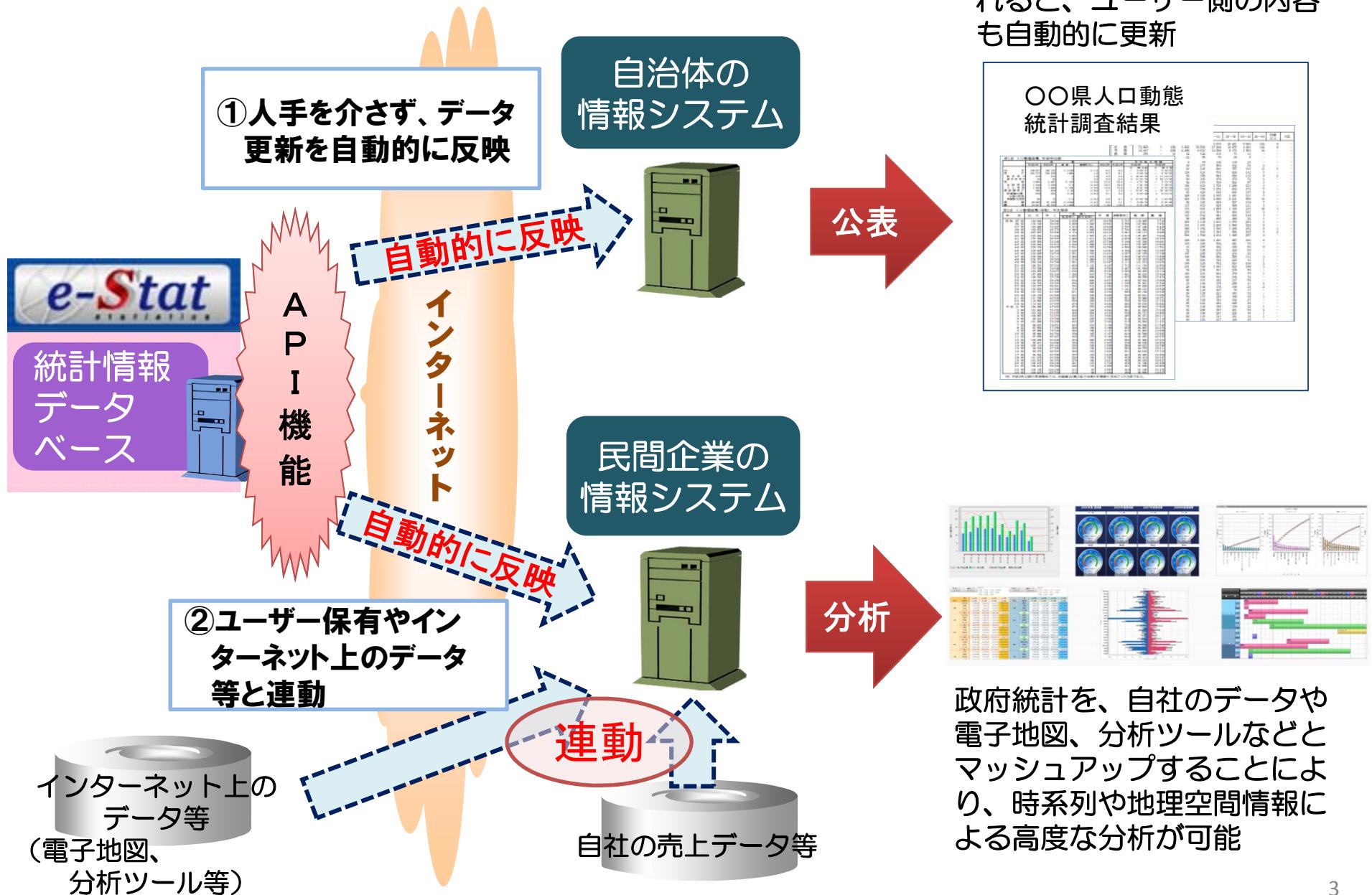
- ▶ 政府統計のポータルサイト『e-Stat』に、新たにAPI機能(Application Programming Interface)を付加するとともに、蓄積された統計データを機械判読可能な形式に変更することで、次のようなことが可能に

- ① 利用者の情報システムにe-Statのデータを自動的に反映
- ② ユーザー保有やインターネット上のデータ等と連動させた高度な統計データ分析



- ▶ 統計データ利用の高度化や効率化の環境が構築され、ビジネス活性化や新規事業の開発促進、行政サービス向上などに貢献
- ▶ 6月上旬からユーザー登録制で試行提供を開始予定
(統計局所管の統計データによる試行提供によって機能やシステム負荷の検証を実施)

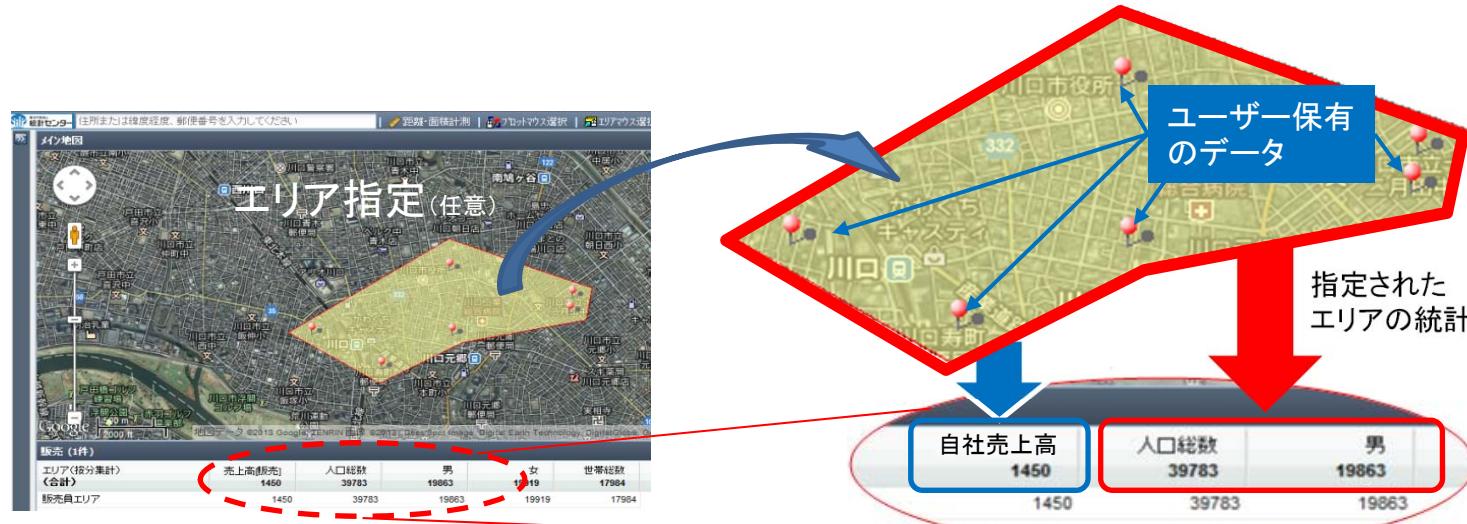
【活用例】



2 統計GIS機能の強化

- ▶ e-Statの統計GIS機能を強化し、ユーザー保有データの取り込み分析や任意に指定したエリアにおけるデータが利用可能になるような機能を開発中

【活用例】 ①ユーザーの保有するデータを取り込んで分析する機能の追加
 ②任意に指定したエリアにおける統計算出機能の追加

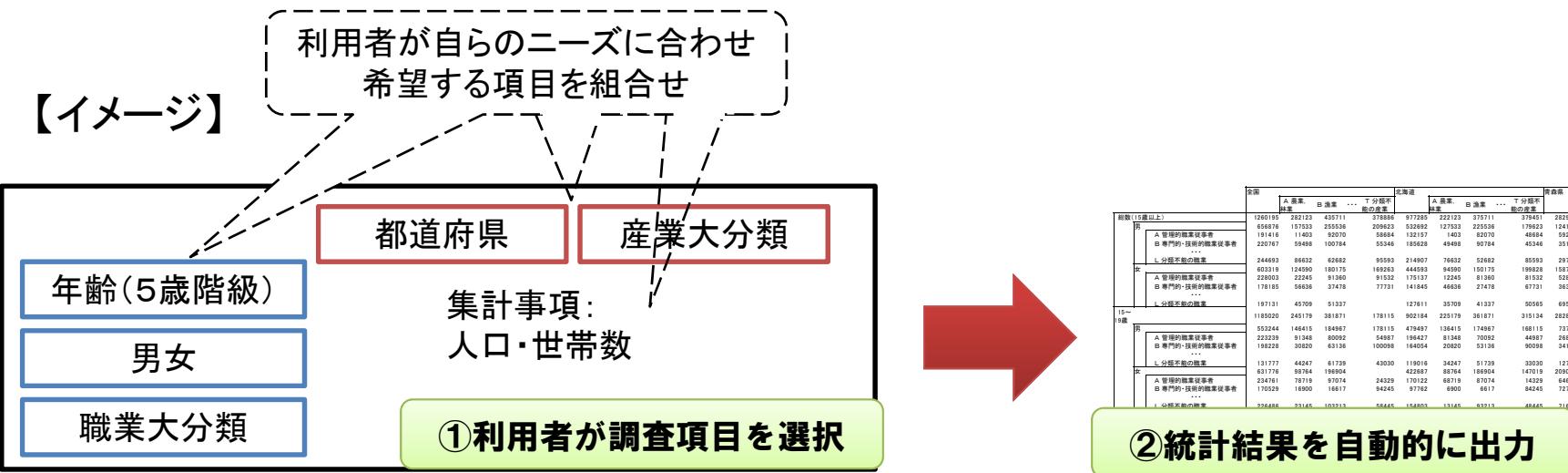


- ▶ 本年秋を目途にユーザー登録制で試行提供を開始予定
 (統計局所管の統計データによる試行提供によって機能やシステム負荷の検証を実施)

3 オンデマンドによる統計作成機能・方策の研究

- ▶ 公的機関や学術研究などの利用において、利用者が調査項目を選択するだけで統計結果を自動的に出力する、新しい形の統計提供サービスを研究中
- ↓
- ▶ これにより、既存の結果表にない任意の多重クロス集計が出力可能になり、学術研究を始めとする多様なニーズに対応

※実用化に向けては運営・制度面及び秘匿処理における検討課題がある。



(参考) 統計データのオープン化の現状



(平成25年5月時点)

- ▶ 統計結果は、原則インターネット上で公開
- ▶ 統計局所管統計の結果は、全て公開済み
 - データベースやスプレッドシート形式など、データとして利用可能な形式
 - 報告書には掲載しきれない結果データもインターネット上で公開

- ・統計結果はe-Statにスプレッドシート形式などで掲載することが原則(※)
※統計調査等業務の業務・システム最適化計画(平成18年3月 各府省CIO連絡会議決定)
 - ・一部府省では、PDFなどユーザーが自由に編集・加工できない形式での公開にとどまる統計もある